

盛岡聴覚支援学校

研究テーマ

「一人一人の幼児児童生徒の実態と教育的背景にあ
わせた、必要な配慮のある指導実践の取組」
(2年次研究2年目)

1 全体研究

(1) 主題設定の理由

本校に在籍している幼児児童生徒は、聴力レベルはもとより、装着している補聴機器（補聴器、人工内耳）やその装着状態（両耳補聴器、両耳人工内耳、人工内耳＋補聴器など）、聴覚活用程度、ロジャーなどの補聴システムの使用状況など、個々の幼児児童生徒が置かれた状況は一人一人異なる。また、学力や言語力、手話のスキルや手話を使ったコミュニケーションが成立する環境の違い、これまで受けてきた教育の場の違いや希望する進路なども含めて考えた場合、「必要な配慮」は「聴覚障がい特性」の枠には収まり切らないものもあると言える。さらに本校に在籍する他の障がいをあわせ有する（と考えられる）幼児児童生徒への「必要な配慮のある授業」について考えた場合は、さらに枠を広げて考えなければならないと言えよう。これまでの研究よりもさらに「個」に焦点を当てた研究活動をおこないたいと考え本テーマを設定した。

(2) 研究の目的

様々な状況に置かれた幼児児童生徒に対し、「聴覚障がいがある」という前提に加え、それぞれの幼児児童生徒が抱える実情に即した形で、必要な授業や支援をおこなっていくための、研究活動に取り組む。

(3) 研究の内容（2年次）

① 幼稚部

授業実践における課題設定と手立ての工夫
～関係機関との連携を反映させた指導実践の取組

② 小学部

一人一人の幼児児童生徒の実態と教育的背景にあ
わせた、必要な配慮のある指導実践の取組

③ 中学部

一人一人の生徒の実態と教育的背景にあわ
せた、必要な配慮のある指導実践の取組 ～教
材・教具の工夫について～

④ 高等部

生徒が思考を深めるための効果的なアプ
ローチについて

⑤ 寄宿舎

豊かな生活をめざした一人一人の食に関
わる支援について

(4) 今年度の実践

① 授業研究会（4回）

各学部における授業研究会

② 学部研究会（9回）

各学部でテーマを設定した研究会

2 講演会

演題：「一人一人の実態と教育的背景に合
わせた必要な配慮のある指導実践」

講師：宮城教育大学教育学部 特別支援教育
教員養成課程 聴覚・言語障害コース
准教授 松崎 丈 氏

期日：令和元年8月9日（金）

参加者：65名

3 研修会

(1) 初任者研修会（センター事業公開講座）

① オージオグラムの読み方・聴力測定について

② デジタル補聴システム（ロジャー）の使用
方法、補聴器・人工内耳について

③ 言語指導・発音・発語指導の実践紹介

④ 子どもたちが理解を深めるために ～手話を使
い、視覚教材の効果的な活用について～

⑤ 人工内耳Q&A（日本ココレア）

⑥ 聴覚障がいを有する幼児児童生徒の特性理解

⑦ 聴覚障がい教育をとりまく情勢について ～乳
幼児から高等部卒業まで～

(2) 研修報告会（1月9日）

4 刊行物

研究集録を刊行する。